



# 能登やさしいこめづくり情報

令和2年8月  
能登米振興協議会  
能登米生産者協議会  
能登南部営農推進協議会  
JA能登わかば

## 早生収穫編

### 「適期刈取り」、「適切な乾燥・調製」で品質向上！！

### 1 生育概況と当面の管理

- ・ゆめみづほの出穂期は7月20日に迎えたことから、今年の刈取り適期は8月27日～31日の予想となっています(8/14時点)
- ・ハナエチゼンの出穂期は7月18日であったことから、今年の刈取り適期は8月25日～29日の予想となっています(8/14時点)
- ・梅雨明け(8月2日)以降、気温の高い日が続いており、高温が続くと乳白粒や胴割粒の発生が多くなります。当面の管理としては、刈取り直前まで適正な水管理(①乾かさない! ②ずっと溜めない! ③早期落水しない!)を継続し、登熟の向上に努めましょう。
- ・また、乾燥・調製の際の「もみ混入」や「肌ずれ」による落等が例年見られます。適切な乾燥・調製を心掛け、品質の向上を目指しましょう。

### 2 刈取りまでの水管理 [ポイント 刈取り直前まで適正な水管理を継続しましょう!]

- ・登熟期の水管理は、品質や収量向上に最も重要な管理となります。間断通水を刈取り直前まで継続しましょう。
- ・ため池など用水不足が懸念される地域では、計画的な水管理に努めましょう。

#### 【間断通水の徹底】

- ポイント① 乾かさない!** ⇒ 3～5日間隔を目安に通水し、土壌の飽水状態を保ちましょう。  
 <注意> 日中の気温が30度を超える日が続くときは、できるだけ夕方に通水しましょう。
- ポイント② ずっと溜めない!** ⇒ 気温が高い日中の湛水状態は根の機能を低下させるため、避けましょう。
- ポイント③ 早期落水しない!** ⇒ 早期の落水は未熟粒や胴割粒の発生を助長するため、収穫直前まで通水をしましょう。

#### ・異常気象時の水管理

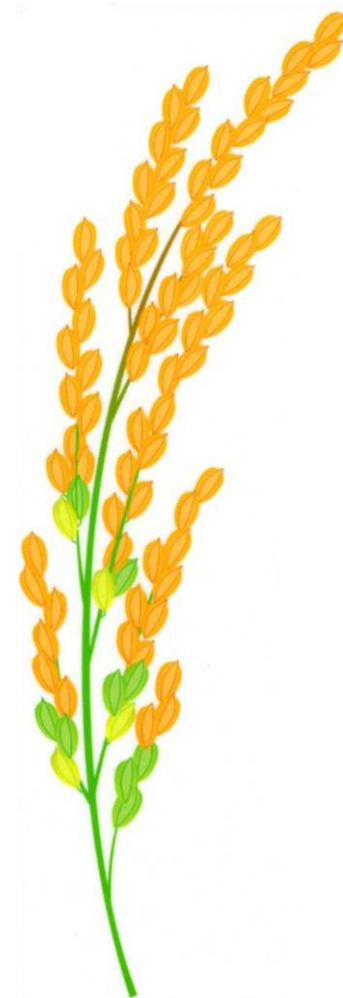
気象災害	対策
台風	<ul style="list-style-type: none"> <li>● フェーン現象(熱風)、強風が予想される場合は、一時的に湛水しましょう。</li> <li>● 台風およびフェーン現象が過ぎ去ったら、速やかに排水してください。</li> </ul>
<b>高温</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高温が予想される場合は、通水の間隔を短くし(毎日でも通水)、足跡に水が残る程度の飽水管理を実施してください。 → <u>高温による白未熟粒・胴割粒の発生防止!!</u></li> </ul>
大雨	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大雨などで湛水状態となった場合は、速やかに排水してください(湛水状態を続けない)。</li> </ul>

### 3 早生品種の刈取り時期

(1) 刈取り時期の目安(8月14日調査)

品種	出穂期	刈取り時期	(前年の刈取り時期)
ゆめみづほ	7月20日	8月27日～31日 (籾黄化率 85～90%)	8月22日～27日
ハナエチゼン	7月18日	8月25日～29日 (籾黄化率 85～90%)	8月20日～25日

籾黄化率85%の穂のイメージ



刈取り時期は、出穂期や田植え時期、ほ場や生育条件、天候によって前後します。

刈り遅れると「胴割粒」や「着色米」が発生しやすくなりますので、上記の刈取り時期は目安とし、ほ場の『籾黄化率』を必ず確認した上で、適期刈取りに努めてください。

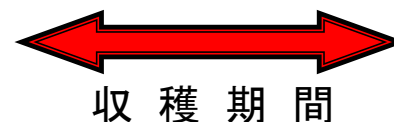
**[ポイント 籾の黄化率を確認し、刈取遅れはしない!]**

～刈取りは、85%から開始し90%までに終える～

【登熟期間の気温が平年並み:籾の黄化程度による刈取り適期判断の目安】

[参考]籾黄化率とは……1穂の全籾のうち、緑色素が消え黄色く変色した籾の数の割合のことです。

籾の黄化程度	30%	40%	50%	60%	70%	80%	85%	90%
刈取り適期	18～19日後	15～16日後	13日後	10～11日後	8日後	5～6日後	2～3日後	適期



収穫期間

## 4 刈取り作業～調整作業の注意点

### 作業のポイント

作業

収穫

乾燥

調製

#### (1) 刈取り前に、ほ場内のクサネムを必ず除去しましょう。

- ・次年度の発生予防のため、クサネムは畦畔に放置せず、ほ場外に廃棄してください。
- ・クサネムの種子は、ライスグレーダーで取り除けないため、**異物混入で落等**の原因となります。



クサネム種子  
(黒い粒:左)

#### (2) 早期に倒伏した部分や早期に登熟(ヤケ照り)した部分は、別刈り・別乾燥で調製しましょう。

- ・早期に倒伏した部分は乳白粒等の未熟粒が発生しやすく、水不足等で早期に登熟(ヤケ照り)した部分は、胴割粒、未熟粒、着色粒が発生しやすくなります。

#### (3) 刈り取った籾は、速やかに乾燥機に張り込みましょう。

- ・刈り取ってから**4時間以内に乾燥機へ張込み、通風**しておくことで、ヤケ米(菌の侵入を受けて着色した米)の発生を防止することができます。
- ・水分が高い籾はヤケ米の発生を助長するので、**降雨直後などは無理に収穫を行わない**ようにしましょう。

#### (1) 急激な乾燥や高温乾燥は避けましょう。

- ・乾燥中の籾の温度は、35～40℃以下で、乾減率0.8～1.0%/時程度とします。 → **胴割粒の発生防止**

#### (2) 籾水分のムラ、余熟乾燥や戻り乾燥に留意しましょう。(乾燥機の水分計を過信しない)

- ・**籾水分は、14.5～15.0%**になるように仕上げましょう。
- ・籾の水分過多では「肌ずれ」、過乾燥では「胴割粒」が発生しやすくなるので注意しましょう。
- ・**適期に収穫しても籾水分にムラがある場合は、『2段乾燥法』**を用いましょう。

【参考】2段乾燥法とは……

籾水分を一旦、18%程度で乾燥機を止め、5～8時間おいて調湿した後に、14.5～15.0%に仕上げ乾燥を行う方法のことです。

- ・青米粒の混入割合によって、乾燥機を止める時の水分や停止後の水分変化が異なるため、注意しましょう(右の表を参照)。

【乾燥機の停止水分判定表】

100粒中の青米粒	乾燥機を止める玄米水分	乾燥機停止後の水分変化
0～5粒	15.5～15.1%	乾く(下がる)
6～10粒	15.0～14.6%	ほとんど変わらない
11粒以上	14.5%	もどる(上がる)

#### (1) 事前に籾摺機の点検整備を実施しましょう。

- ・「肌ずれ」、「胴割粒」の発生を抑えるため、籾摺前に**籾水分(14.5～15.0%)**を確認しましょう。
- ・作業開始前だけでなく、**作業中も籾摺りの程度をこまめに確認**しましょう。 → **もみ混入、肌ずれ粒発生防止**
- ・籾が混入している場合は、籾の流入量・ロール間隙・選別機の調整を実施してください。

#### (2) ロールの間隙は、籾厚の1/2が目安です。

- ・ロールの間隙を締めすぎると「胴割粒」や「肌ずれ」、広いと「もみ混入」が発生しやすくなるので注意しましょう。
- ・ロールが摩耗・劣化している場合は、交換してください。

【着色粒(斑点米、褐色米など)による落等の目安]

1等	1,000粒中	1粒まで
2等	1,000粒中	3粒まで
3等	1,000粒中	7粒まで
規格外	1,000粒中	8粒以上混入

着色粒は白いカルトンで確認



【もみ混入]による落等の目安]

1等	1,000粒中	3粒まで
2等	1,000粒中	5粒まで
3等	1,000粒中	10粒まで
規格外	1,000粒中	11粒以上混入

もみ混入は黒いカルトンで確認



#### (3) ライスグレーダーの網目のサイズはLL網(1.9mm)を使用し、整粒歩合80%を目指しましょう。

- ・LL網(1.90mm)を使用し、調製は適正流量で整粒歩合の向上を図りましょう。

<1.90mm網の特徴>  
・未熟粒(青未熟・白未熟)を除去できるため、品質向上につながる。



1.9mm以下の玄米品質は非常に低い

【適期刈取、適正な乾燥調製作業の徹底!!]

- ◎ 胴割粒の発生防止のため、早生品種の収穫作業は籾黄化率85%から開始し90%までに!
- ◎ ヤケ米発生防止のため、刈り取った籾は速やかに乾燥機に!!
- ◎ 無理のない乾燥調製作業で、胴割粒、肌ずれ、籾混入の発生防止!!!

【注意!!】カメムシ防除剤としてキラップ粉剤DLやキラップ粒剤、キラップフロアブルを散布した場合は、散布日から14日以降での刈取りを厳守してください(上記の農薬は、使用時期が「収穫14日前まで」と定められています)。